

令和 7 年度

主要地方道上市北馬場線線

釈泉寺橋添架送水管復旧工事

特 記 仕 様 書

上市町水道事業

配水管等布設工事特記仕様書

目次

第 1 章	一般事項
1	目的
2	工事場所
3	受渡期日
4	図書提出
5	疑義の解釈
6	法令等の遵守
7	諸手続
8	工事着手
9	用地使用
10	材料置場
11	施工計画
12	材料
13	材料の検査
14	寸法
15	第 3 者既設物
16	安全衛生管理
17	工事現場管理
18	既設管断水
19	施工の検査
20	試験
21	現場と図書の差異
22	転圧
23	産業廃棄物
24	後片付
25	施工写真
26	工事報告
27	竣工図書
28	精算
29	瑕疵担保責任

第2章 水圧試験

1 水圧試験

第3章 給水台帳等

1 給水台帳

第4章 仕切弁、消火栓及び空気弁等台帳等

1 各構造物台帳

2 消火栓筐等の指定

3 仕切弁筐等の指定

第1章 一般事項

1 目的

この仕様書は、上市町水道事業を行いつつ、水道法「昭和三十二年六月十五日法律第百七十七号」の第24条の規定によるものである。本工事施工等において既存の水道施設、特に給水装置に多大な影響をおよぼさぬよう、また、水道水に対して汚染をさせないよう慎重に施工しなければならない。本仕様書及び設計図書並びに水道工事標準仕様書に基づき施工しなければならない。なお、水道工事標準仕様書を基本とし、国土交通省を参考と明記がある項目については、富山県土木工事共通仕様書に習うこと。

2 工事場所

富山県中新川郡上市町 釈泉寺 地内

3 受渡期日

工事施工完成後とする。

但し、工期を順守し、必要な総合試運転を行い、竣工検査合格後とする。

4 図書提出

下記の図書等を準拠法令等に沿って必ず提出すること。なお、必要に応じ発注者の指示に従うこと。

- (1) 施工計画書、再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書
- (2) 工程表
- (3) 着手届
- (4) 現場代理人及び主任技術者選任届
- (5) 施工体制台帳（As 舗装工事及び側線等を伴う工事は提出報告厳守）
- (6) 工事作業所災害防止協議会兼施工体系図の写し
- (7) 退職金制度届出書
- (8) 工事段階確認申出書
- (9) 使用資材届
- (10) 安全・訓練等の実施記録
- (11) 出来形管理図
- (12) 再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書
- (13) 工事完成届
- (14) その他町の必要とするもの

5 疑義の解釈

受注者は本仕様書及び設計図書に事項に基づき工事施工を行うものとし、常に発注者と連絡をとり入念かつ円滑に施工しなければならない。

また、特に明記なき事項であっても、本施設の目的及び工事施工上当然必要なものは発注者が指名した監督員（以下「監督員」という。）の指示に従い、受注者の負担で整備又は施工しなければならない。

なお、本仕様書及び設計図書等に疑義を生じた場合等は、監督員と協議の上決定するものとする。

6 法令等の遵守

（１）工事の施工にあたり、請負人は、建設業法、建設基準法、道路交通法、騒音規制法、労働基準法、その他関係法規および上市町の条例、規程を遵守しなければならない。

（２）上市町暴力団排除条例（平成 24 年 3 月 19 日条例第 1 号）の規定により、暴力団、暴力団員及び暴力団構成員を雇用又は役員で構成されている法人が請負又は下請け等になった事実があった場合は契約を破棄する。この破棄に伴う法人に対する損失において、発注者は責任を負わないものとする。

（３）本工事で取り扱う個人情報、断水など住民に対する損失を最小限にするため取り扱う物であって、本工事以外に使用し若しくは第三者に漏らしてはならない。

7 諸手続

本工事施工のため必要とする関係官公所署、組合、企業等への許認可等の手続きは、請負人において速に処理しなければならない。ただし、発注者を經由して交渉又は手続きしなければならないときは、遅滞なくその旨、監督員に申しでなければならない。

8 工事着手

（１）工程表に基づき工事着手するものとするが、着工に先立ち、必ず監督員にその旨を連絡しなければならない。

（２）地下埋設物等の状況についても報告しなければならない。

（３）工事地区関係各位に対しても、工事概要が明記されている図書等を配布し、同様の説明を行うこと。

9 用地使用

施工上使用する民有地については、全て請負人が交渉し、使用借上料等は請負人の負担とする。

10 材料置場

材料置場は材料別に整然と置ける場所とし、監督員の検査を受けるものとする。

但し、屋内で保有の必要があると思われる材料は全て監督員の指示によりこれに従うものとする。

11 施工計画

本工事の着工に先立ち施工計画書を作成し、監督員の承認を受ける。

但し、施工計画書には工程表（資材労務計画を含む。但し、発注者が指定した様式で先に提出した場合は省略することができる。）及び仮設建物、足場、棧橋、工事用電気設備、機械器具、材料置場、仮設排水、仮囲等について計画を示すものとする。

12 材料

材料は特に記載された物以外は全て新品とする。

（１）管など材料は ISO 及び JIS 並びに JWWA 規格に適合するものとする。また、規格の制定ないものについては、品質等がそれぞれ均衡を得たものとする。

（２）管など材料は、たとえ ISO 及び JIS 並びに JWWA 規格に適合していても、過去に重大な事故があった製品については、発注者が精査し、不使用とすることができるものとする。

（３）上記以外のものについては見本品を提出する。

（４）仮設管路の場合は、原則設計書に記載されている 2 次製品以外の材料の使用は認めない。ただし、やむを得ない場合は、監督員の指示に従うこととする。

13 材料の検査

材料検査は、監督員の立会いの上で採取し、監督員の指示する試験所で試験を行い、その成績書を提出して承認を受ける。また、2 次製品等の使用資材届は同一の承認図 3 部を発注者に提出し、承認を得た後購入すること。なお、発注者が指定した製品については承認図の提出は必要としないこととする。

（１）機械器具や材料のうち、監督員の必要と認めたものは制作工場に於いて監督員立会いの上、試験を行いその成績表を提出する。

（２）材料検査願いを請負人は発注者に提出し、これに基づいて監督員が検査する。検査の結果、不合格となった材料は速やかに資材置場より搬出し、不足分を再度検査する。

（３）日本水道協会規格品（ISO、JIS を含む）については、検査合格証明書を納入と同時に発注者に提出する。

（４）見本品施工図

施工上必要な図面、原寸図、工作図および型板等は、施工前に監督員の承認を受ける。

14 寸法

本仕様書及び図面に指示する寸法は、コンクリート関係については打上げ寸法とし、完成品については仕上り寸法とする。

15 第三者既設物

第三者の既設物に対しては、本仕様書及び設計図書等に明記が無くても全て受注者の費用にて相当の防護工を施さなければならない。また、やむを得ず取壊した場合は、原型に復旧しなければならない。

16 安全衛生管理

受注者は、労働安全衛生に関する諸法令に基づき、安全衛生管理者を定め、工事場所における安全衛生管理を行うものとする。また、この工事は、水道施設を建設するものであるから衛生施設を完備し、汚水、汚物などは発注者の承認を得た方法により処理しなければならない。

また、受注者監督員及び施工者全員が、水道法第 21 条及び水道法施行規則第 16 条の規定によるところの「健康診断」を実施していることとする。施工日までに実施していない者が居た場合は、その者に施工させてはならないものとする。

17 工事現場管理

受注者は、工事現場内における工程管理、品質管理、現場取締及び関連業者との調整を行うため、同種工事に経験の豊富な現場代理人及び主任技術者を配置するものとする。

(1) 現場代理人が、現場を離れる時は必ず監督員に申し出て、副代理人を配備するものとする。

(2) 工事場の管理は労働基準法、その他関係法規に従い遺漏なく行い、また、工事場の労働者その他の出入人の風紀、衛生の取締及び火災、盗難等の事故防止に十分な注意をすること。工事場においては常に諸材料、その他の整理及び清掃を行うものとする。

18 既設管断水

(1) 受注者は、工事現場内において、既存の管路等を施工する際に断水が生じる場合は、事前に監督員に申出を行うこと。

(2) 受注者は、監督員の指示を受け、関係各位に事前に口頭若しくは断水のお知らせ等「別紙 1 (例)」を配布すること。

19 施工の検査

各工事は予め監督員の指定した工程に達した時、検査を受け、合格承認を得た後、次の工程に移る。

(1) 施工後に検査が不可能又は困難な工事はその施工に当たり監督員の立会いを受ける。

(2) 検査不合格の時は速やかに補修、取り替えを行い、再検査を受けるものとする。

20 試験

発注者の指示した材料の試験については、材料供試体は発注者の立会いの上で採取し、封印又は検印を受け発注者の承認する試験を行い、その試験書を提出して承認を受ける。

21 現場と図書の差異

設計図書と現地の差異が生じた場合は、速やかに監督員に申し出て指示を受けるものとする。

現場の収まり、取り合せ等の関係で材料の寸法、取り合い位置又は取り付け工法を多少変え、あるいはこれらによって取り付け員数を幾分増減する等の変更は、監督員の指示によって行うものとする。なお、これによって材料の増減が伴う場合、請負金額の増減には反映しないものとする。

22 転圧

転圧は十分に行うものとし、施工後で路面が沈下した場合は受注者の負担で補修原形復旧するものとする。また、発注者や第三者の要望にそぐわない時は、それぞれの意見を集約し、要望どおりとする。完成検査を受け合格した後も後記する 30 瑕疵担保責任のとおりとする。

23 産業廃棄物

アスファルト等の産業廃棄物処理伝票を整理し、検査時に提示しなければならない。

24 後片付け

工事完了に際しては、敷地内の工事用仮設物を速やかに取り除き、後片付け及び清掃する。

25 施工写真

(1) 受注者は、構造物及び布設延長 50m毎に工事経過順序を追って撮影するとともに、施工中の写真は、富山県土木工事共通仕様書富山県土木工事写真撮影要領を基本とする。

水道管路及び布設箇所は、布設箇所が分かる全体風景と共に写りこむようにすることとし、収録した写真帳を提出する。

- (2) 写真帳はアルバムもしくは同等品とし、表紙に工事名称、工事場所、請負人を明記する。
- (3) 写真の寸法はサービスサイズ相当とし、追番号を打ち、詳細な説明文を付する。なお、写真帳ファイルソフトウェアを使用する場合は、良質の印刷紙とするが、印画紙相当の紙で無くとも良いこととする。
- (4) 工事着手前の原型と完成後に同一角度による対象写真を必ず貼付けする。
- (5) 各写真には被写体の形状、寸法、位置等が判定し得る様、リボンテープ、箱尺、ポール等を添えて撮影する。
- (6) 写真帳は、1部提出するものとする。
それとは別に管路等における布設部分が県道部の場合は、上記とは別に施工写真を2部提出しなければならない。

26 工事報告

工事の進捗、労務者の就業、機械、材料の搬入、使用状況、天候等を明確に記入して提出する。なお、この報告書は1週間単位にて発注者へ提出する。

27 竣工図書

請負人は工事完了と同時に竣工図面及び竣工精算書を原設計に準じて作成し、発注者へ提出しなければならない。また、竣工図の大きさはISO216のA列で規定されている **A2を基本**とする。

また、凡例には工事契約番号を記入すること。(例：工事契約番号 2025000001)

28 精算

原則として小規模な変更は認めないものとする。ただし、発注者が必要と認めた場合は、請負人の提出した精算図書により、監督員が立合い検査し、これにより精算するものとする。また、この査定には請負人は一切申し立て出来ないものとする。

- (1) 精算は原則として、当初設計単価に請負率を乗じた金額で精算する。
- (2) 仮設物や仮設水道管路(給水装置を含む)の精算は原則行わないものとする。
- (3) 土工事の精算については、一切監督員の判断によるものとし、仮設物法面変化による土量の増大、土質の小量な変化、膨張による数量増加は原則として精算対象としないこととする。

29 瑕疵担保責任

瑕疵担保責任の期間は、供用開始の日より二年内とし、瑕疵が請負人の故意又は重大な過失により生じた場合は十年とする。

第2章 水圧試験

1 水圧試験

水圧試験は、全路線について行い、合格後次の工程に入るものとする。

- (1) 水圧試験区間は約 500m毎、又は 1 系統とし、試験用継手を接合して行うものとする。
- (2) 管内への充水は出来るだけ遅く行い、完全に空気が抜けた状態でテストポンプを接合して行うものとする。
- (3) 試験圧は、配管系統毎に 1.030MPa にて行い、水道設計指針には寄らずに、1 時間後に、0.049MPa 以内の変動範囲であれば合格として、次の工程に入ることが出来るものとする。
- (4) 不合格となった場合は、再度点検後合格するまで行うものとする。
- (5) 路線に高低差のある場合は、底部にてテストポンプを取付けるものとする。
- (6) 水圧試験には、1 時間後に必ず発注者監督員の立合いを求めるものとする。

第3章 給水台帳等

1 給水台帳

給水装置等を施工した場合に限る。

- (1) 竣工後において、本管取出位置、乙止水位置及びメーター位置の 3 点図を提出すること。
- (2) 給水管布設時の工事写真を提出すること。黒板には、使用材料及び深さ等を明記すること。

第4章 仕切弁、消火栓及び空気弁等台帳等

1 各構造物台帳

竣工後において、仕切弁、消火栓及び空気弁等の基準点における 3 点図と道路に沿う全景写真を提出すること。

また、消火栓においては全景写真及び放水口にスタンドパイプを立て、静水圧の測定確認写真を提出すること。なお、電子写真データでの提出可能である。ただし、ファイル様式は JPG とし、一枚あたりのファイル容量は 200 キロバイトを超えないようにすること。

2 消火栓筐等の指定

(1) 筐及び蓋

富山県東部消防組合上市消防署が指定する筐及び蓋（φ600 mmの円形）を使用するものとする。消火栓及びこの装置に付随する材料は、必ず内面紛体塗装品とする。ワジパッキンは GF 型を採用することとし、これに係る承認図の提出は必要としない。

また、地盤面（ground level） から消火栓の放水口までの深さは、100 mmから 300 mm の範囲内とし、補修弁は地中に埋めないこと。これに制約されるための必要材料等は受注者が負担する。

（２）補修弁ハンドルの方向

補修弁はハンドル式ボール弁式とし、水道管路と平行方向に取り付けることとする。また、水道管路が道路部の場合は、道路片側とすること。なお、道路以外の場所又は水道管路が道路中央部に位置した時は、その都度監督員の指示に従うものとする。

（３）消火栓の放水口方向

消火栓の放水口方向は、水道管路と平行方向になるように取り付けること。その他は補修弁の取り付け方法と同等とする。

（４）蓋の蝶番方向

蓋の蝶番方向は、放水口方向とは逆位置になるよう据え付けること。道路歩車道境界ブロック等の支障等がある場合は、据え付ける前に必ず監督員に連絡を取り、指示を仰ぐこと。（上市消防署員との協議が必要の場合がある。）

（５）消火栓標識の据付の注意

消火栓標識の据付は、原則赤色ポール両面式とすること。ただし、据付の位置又は取り付け方法において変更が生じることがある。据付時には消防署員と協議を要することがある。

3 仕切弁筐等の指定

上市町水道事業者が指定する筐、蓋及び継ぎ足し棒を使用するものとする。また、これに係る承認図の提出は必要としない。なお、仕切弁のグランド部を地中に埋めないようにし、仕切弁筐蓋から目視した場合、仕切弁の取付方向が確認できるように据え付けること。これに制約されるための必要材料等は受注者が負担する。

別紙 1 (例)

各 位

上水道の「断水」のお知らせ

日頃、水道事業にご協力いただきありがとうございます。

つきましては、水道工事を下記の日時に行います。

そのため、水道の給水を一時「断水」致しますので、ご協力の程をお願い致します。

なお、工事中、管の中にゴミや砂などが入り、汚れた赤い水が出る事がありますので、水をご使用になる時は、蛇口から水を出して異物や汚れなどの無いことを確認の上ご使用下さい。

また、白い水が出るときがありますが、これは水道管の中に入った空気が小さな泡になり水に混じったものです。

そのままでも飲めますが、少したつと澄んできます。

なお、水道が入っていない方は適用外ですので、ご了承下さい。

{断水日時}

月 日 () { 午後 時 分から
午後 時 分まで

施工業者 社名 * * * * *

住所 上市町 * * * # # # 番地

TEL ***-***-****

※ 天候やその他、工事の都合により、断水時間が予定より多少延び縮みすることがありますので、あらかじめご了承ください。

※ お問い合わせ先 上市町建設課 上下水道班 TEL 472-4646